



“子供が楽しく遊べる街 - 小樽”もまた一興では

小樽商科大学 商学部社会情報学科准教授 沼澤 政 信

■小樽には子供がねだる遊び場はありますか

皆さんもご存じのとおり、東京ディズニーランドや旭山動物園は、お客が十分な満足感を得られるようなサービスやわくわくドキドキしたりするような仕掛けを提供して、全国から多くの来場者を集めています。子供達にとっては遊びに行きたい場所の最たるもので、この夏も「連れて行って！」とせがまれている家庭も多いのではないのでしょうか。では、小樽にはこのような子供達がねだっても行きたいと思うような施設やテーマパークはあるのでしょうか。

先日(8/5)、小樽商科大学では、本学へ入学を希望する高校生に対して施設内を公開するオープンキャンパスの特別企画として、「小樽の街を探る！高校生のためのアクティブラーニング」を開催しました。本年度は近隣の札幌を中心に遠くは青森、旭川から約40名の高校生が参加して、“小樽らしいご当地スイーツ”の開発を行いました。そこでは、寿司、海、ワイン、ガラス工芸、オルゴール、運河、坂、レンガ倉庫、市場、水族館、イベントが多い、海の幸やスイーツが美味しいなど、高校生のイメージする「小樽」が出ました。小樽を訪れる観光客さながらの回答の数々です。しかし、その一方で、高校生達からは「小さい頃、水族館を見にきました」以外、「子供の頃、〇〇をしたくて何度も小樽に遊びに来ました」という意見は挙がりませんでした。

■現実とネットの世界を融合させた遊びの場の提供

先の質問に読者の皆さんは何と回答されたのでしょうか。高校生の意見からもわかるように子供の頃によく訪れた小樽の遊び場は決して多くなかったのではありませんか。そこで、この事実を踏まえ、小樽活性化の一つのアプローチとして、ドキドキわくわくする“子供が楽しく遊べる街”作りを考えてみてはいかがでしょうか。

しかし、実際、小樽市に子供のためのテーマパークや動物園などを作ることは財政上簡単なことではありません。そこで、情報通信技術を利用して現実の世界とインターネットの世界を融合させた遊びの場を提供することを提案します。イン

ターネットを利用しますが、世界中どこにいても遊べるものではなくて、小樽に来てはじめて遊べるということが重要ポイントです。

■ゲーミフィケーションによる遊び場作り

最近流行っているビジネス戦略の一つに、ゲームの要素や考え方を取り入れて顧客の行動を促進させるゲーミフィケーションがあります。以下に、前述の遊び場を作る上で参考となりそうなゲーミフィケーションの実例を紹介しましょう。

第一の例はジオキャッシングです。これは、現実世界に隠された宝物を、ネット上に掲載された情報を頼りにGPS端末を用いて探し当てる宝探しゲームです。現在、国内に置かれているキャッシュ(宝箱)は14,000個以上もあります。もしGPSによる位置情報獲得が難しい施設内で宝探しをするならば、QRコードやICタグを利用して情報・サービスを提供すると良いでしょう。水族館の水槽前のQRコードにより魚情報を提供するアプリ「ikesu」が参考になります。もう一つの例はシリアスゲームです。例えば、街の観光をサポートする福岡市まち歩き「福プラ」、街への興味・関心を高めるための江別市まち歩き「BRICK STORY」などが実際に公開されています。それらは、テーマを持つ各コースから一つを選択することで物語を提示し、その中で指示されるスポットに実際に足を運ぶことではじめて、物語の続きが読める仕組みを持ちます。

■子供たちにとっても魅力的な小樽の街を

このような技術や実例を参考に、高額な参加費や無茶な課金システムなどは設けず、小樽市の街全体、もしくは水族館や廃校となった校舎、商店街を利用して、子供達が小樽に来てはじめて遊べる遊び場(ゲーム)を提供してみてはいかがでしょうか。年中ではなく、祭りのようなイベント時だけに提供されるサービスでも構いません。子供達が「ねえ、小樽に遊びに行こうよ」と両親や祖父母にねだるような、そして、「小樽は子供の頃によく遊びに来た街だよ」と言わせるような、“子供が楽しく遊べる街”作りを皆で考えませんか。